

SSKU

2016年度

お元気ですか?
イリアンソス
です。



PAGE

06 コラム 夢の実現～カシオペア旅行～

PAGE

02 理事長の散歩道⑬

PAGE

03 特集 法人事業報告会～実践を振り返る～

理事長の散歩道



理事長の散歩道 ⑬

社会福祉法人イリアンソス

理事長

磯部光孝

追悼

3月23日水曜日、友田昭子さんがお亡くなりになられました。友田さんは、障害のある娘の母であり「のぞみの家」の創設当時から関わってくださり、無認可時代には所長を努め、法人となつてからは理事として支えて下さいました。友田さんの歴史は、のぞみの家の歴史であり障害福祉の歴史です。

きょうされんの「共同作業所のむこうに」に友田さんに寄稿していただいた文章を掲載させて頂きました。まだまだ、最後の文章にあるように、「…彼女らしい人生とは？をみんなで追い求めていけたら…」を一緒にやりたかったです。まだ年齢的にもこれからという時期でしたので、ここで亡くなられたことは法人にとっても非常に残念です。

娘は43歳(当時)、生活寮での暮らしも丸8年経ちました。食べること、排泄すること、話すこと、移動すること、その他生活全般に人の手助けを借りながらも彼女らしくたくましく生きています。わたしがまだ親として若かった頃、娘の将来が皆目見当がつかず、ただただ毎日が試行錯誤の連続でした。そして常に漠然とした不安感に覆われていました。多くの場合ぎりぎりまで家族が支え、いよいよどうにもならなくなつた時に親子の双方が本意な形で分かれていく例にいくつも出会ってきましたが、それはとてもやりきれないことでした。

親が元気なうち障害をもつ者もその近くで自立を果たしていくことが出来たら、お互いにどれほど励みになるだろうかと思つたものです。これまでわたしたちの周りには重い障害を持つ人たちの自立を具体的にサポートできる生活の場がなかなかありませんでした。が、幸いなことに本人及び家族の願いが少しずつ叶い、夜間の介護も可能なケアホームの制度もできてきました。何より嬉しかったのは家族以外の人たちとの生活を始めてみて、娘自身の持つていた、であろう生きる力、気持ちの表現の豊かさに多く出会えたことでした。

言葉までには至りませんが声のトーンでかなりのコミュニケーションが広がりました。そして週末は家族との暮らしを以前以上に楽しんでいく様子が伝わってきます。

わたしたちも気持ちの上でとても余裕ができ、このメリハリのある今の生活が一日でも長く続くことを望んでいます。今度は本人の体力が衰えたとき、親が高齢になって関われなくなつた時など、どこまで地域の中での生活が続けられるかというところが重要な課題になってきますが、最後まで彼女らしい生とは？をみんなで追い求めていけたら幸せです。

(文：友田昭子)

きょうされん

「障害のある人の仕事とくらし
共同作業所のむこうに」より

常々、友田さんは「わたしと英子は障害福祉のパイオニアよ」とおっしゃっていました。そういう意味では、娘の英子さんにとってはご両親がいなくなり(お父さんも去年亡くられました)、のぞみの家と生活寮の暮らしが始まりました。そして、ご兄弟の方々にも支援してもらおう生活になります。引き続きパイオニアとして、娘の英子さんは自分らしい人生を歩んでいくことになりました。ぜひ、天国から応援してください。



特集

イリアンソス 事業報告会

～実践を振り返る～

『考える力を身につける』

イリアンソスでは、成人の通所施設、生活寮、障害児の放課後活動、居宅事業や相談支援事業など事業の数が増えてきました。そこで、お互いのとりくみを共有し合うため全職員がレポートを作成し実践を振り返り、今後の活動を考えることにしました。

そして、その中から「事業報告会」として、数本のレポートを発表し改めて職員集団で今後の課題を確認するとともに、広く関係者の意見も聞きながらより良い支援について考えることにしました。

今回は第一回目の事業報告会として開催し、利用者やその家族をはじめ、他事業所や特別支援学校からもご参加いただき、貴重なご意見をお聞きすることもできました。また、あさやけ第二作業所施設長の庄司完氏と、わかさ学園元相談員佐々木玲子氏に助言者として新たな視点となるアドバイスを頂くことができました。

これを機会に毎年開催し法人のとりくみを公開して障害のある方々へのより良い支援について考えていきます。

活動センターかなえ 施設長 多田由美

報告① 自分を知らなくとも

私は生活寮の職員として今回の報告会に参加させていただきました。女性寮ではうみに入居しているNさんについてレポートを書きました。内容は、リフトを使用しながら寮で暮らすNさんの支援についてです。どのようにならんと関わってきたか、当手を振り返りながらこれまでの支援を職員全員で話し合い、ひとつのレポートを完成させました。当時を知っている職員、知らない職員、どちらにとっても勉強になることばかりだったと思います。私は、このレポート作成にあたり当たり前に思う「今」にたどりつくまでの様々な経緯がとても重要だと感じました。それを振り返ることにより、今後の支援につなげていくことが出来ると思うからです。

当日、発表を聞きながら感じたことは、各事業所の取り組みを知る機会がもつと増えたらい良いということです。寮は、主に連絡帳を通して事業所と情報共有をしています。ノートをひらけば絵を描いた、ケーキを作った、さきおりをした、手芸をした、とその日にどのような活動をしたかを知ることが出来ます。そこから「今日もお仕事頑張りましたね！」と入居者の方に声をかけたりします。

ただ、日中仕事をしている様子を見ることはなかなか出来ません。文字として読むこと

が多くなり、活動について深く考える時間もほとんど持てません。とても残念に思います。そんな状況だからこそ、今回の報告会のように情報発信するところがあると、事業所も寮もお互いどのような支援をおこなっているのかを知ることが出来ます。また、多くの事業所が利用者の方ひとりにスポットを当てて、スタツフがどのように関わっているかを報告していました。それを聞いて、ひとりひとりのやりとりを大切にしていることが感じられました。

動画や写真、実際に活動で使っているものを用いながらの発表はとてもわかりやすく、参考になりました。





今後も続けていくとのことなので、どうい
う支援をしているかを報告し合う場があるこ
とで「これはどうなのだろう?」「こういう声
かけを取り入れてみよう」と意識するきつ
けになると思うので、それぞれの事業所がよ
り良い支援が出来るようになっていくのでは
ないでしょうか。日々の勤務の中、レポート
作成、発表はなかなか大変ですが、貴重な時
間を経験することが出来てよかったです。
皆様、お疲れ様でした!

生活寮うみ 秋元沙織

報告② 利用者を中心に

なかまの家のレポートでは、Mさんの過去
の経験や服薬状況、実践の事例を振り返り、
丁寧な観察やさまざま視点から支援を考え
ることの大切さを報告しました。

2月の事業報告会に先立って、9月に法人
職員全体研修でレポートを発表し意見交換を
行いました。なかまの家の職員の視点からだ
けではなく、Mさんについて各事業所の職員
からさまざまな視点で意見が出ました。Mさ
んが、なかまの家に通所するようになった頃
のことやその当時の支援について、当時関わ
っていた職員から話を聞くこともできました。
その後、なかまの家では、ご家族にMさん
がなかまの家に来る前の他施設での様子を聞
くことにしました。話を聞くまでは、知らな
かったMさんの姿や他施設での対応を知るこ
とができ、その上でMさんへの支援を振り返
ることができました。現在の支援がMさんに
とってどうなのか、Mさんの様子の記録など
を利用しながら振り返り職員間で話し合いを
しました。職員一人ひとり考えが同じ部分や
違う視点からの考えもありました。こうした
振り返りを職員間で行うことで、新人職員も
含め職員全員がMさんについて情報や支援に
ついて考えを共有する良い機会になりました。
2月の事業報告会当日は、9月時点のレポ

ートよりも内容を深めて発表することができ
たと感じています。今回のレポート作成を通
して、支援をする上でいかに利用者の生い立
ちや実践を振り返ることが大切かを改めて感
じています。また、法人職員全員で意見を出
し合ったり利用者について振り返ったりする
ことがとても楽しく感じました。次回のレポ
ート作成でも積極的な話し合いをより良いレ
ポートを作成したいと思います。

なかまの家 大島晋

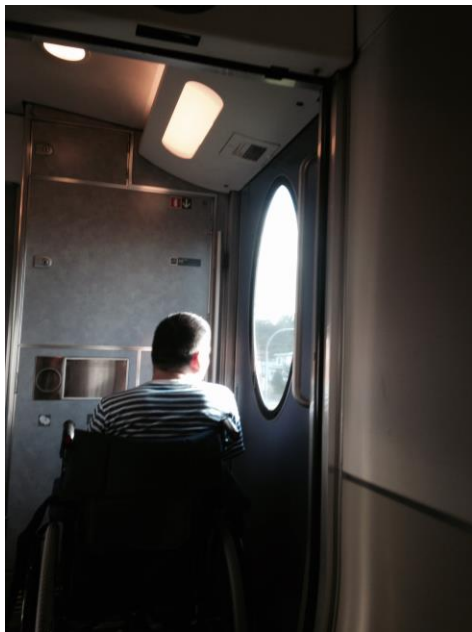


コラム

「カシオペア旅行」〜夢の実現〜



今回のコラム記事はのぞみの家の多田鉄太郎さんの夢が実現できた話です。
多田さんは鉄道好きで、夢は寝台列車の『カシオペア』に乗ることです。
遡ること去年の春、2016年の北海道新幹線開通により、カシオペアが廃線されるとのニュースが多田さんの耳に入りました。
漠然と「乗りたいな」と思っていた夢の實現に、焦りが出て来ました。仕事の合間にインターネットで情報収集したり、ヘルパーさんと話をしたりして実現に向けて動き出しま



した。しかし、チケット倍率が高く、空席情報には×が並びます。本人とも何度か話をした結果、やるだけのことはやってみよう!ということになりました。
ある日の外出支援の際に新宿のみどりの窓口に入ったところ、車いす部屋の空席があることがわかりました。ヘルパー体制・スケジュールの詳細など、先のことは未定でしたが、とりあえず、その場で予約。
そこから、誰と行くか? 何泊で行くか? 帰りはどうするか? いくら掛かるか? 本人と家族とヘルパーさん、のぞみの家の職員で話し合いを重ねていきました。



最終的に2泊3日で上野〜札幌、のぞみの家の職員が同行、帰りは飛行機ということが決まりました。
本人の強い思いが実現へと繋がっていきました。
当日の上野駅、カシオペア到着の際には感慨深そうに見守る多田さんの姿がありました。車内では、少し緊張しながらも楽しんでいました。

「多田さんの言葉」

カシオペア旅行の事は、東京から16時間も時間がかかった。が、北海道まで行ったかいがある。非常に良かったです。カシオペアの車内のTVで、高校野球の特集を見ていました。

7時頃にカシオペアのスペシャル弁当がきて、鶏肉のや車エビが入っていて、とっても美味しかったです。夜はベッド倒し寝ました。青函トンネルも通過しました。到着したの12時頃でした。北海道ではジンギスカンも食べました。行けて良かったです。いい思い出になりました。 文章…多田鉄太郎



帰って来てから写真と共に仲間へ報告。今までの経過も知っている仲間からも「よかったね」と声を掛けられていました。他の仲間からは「オレも福岡に行つてソフトバンクの試合を見たい」「1人暮らしをしたい」など、夢が語られていました。多田さんの夢の実現から周りの仲間やスタッフも大きな刺激を受けたかと思えます。多田さんは現在、新しい夢にむかって進んでいます。

のぞみの家 吉田遊佑

法人行事

『後援会 映画会』

◎日時：6月11日(土)

1回目：10時00分〜 / 2回目：13時30分〜

◎場所：東久留米市マロニエホール(旧公民館)

◎問い合わせ：映画会実行委員会 042-473-9027

『リサイクル久留店』のぞみの家のバザーです。

◎日程：6月9日(木) 23日(木)

◎場所：滝山団地センター前広場 ※雨天中止

ご寄付をいただきました(4月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。誠にありがとうございました。いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様

編集後記

新年度が始まり異動や新入など忙しくしている方が多いのではないのでしょうか。そんな中、熊本での大地震がありました。現地に行くことは難しいですが、何か出来ることはないかと考えています。みんなの手を取り合い、被災地の方たちが一日も早く笑顔になることを心から願っています。

なかまの家 吉田 貴吉

表紙の写真／

上野駅13番ホームにて
若干、緊張の表情です。

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17
ヴェルドナーラ祖師谷 102号室

Tel 03-6277-9611 Fax 03-6277-9555

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18

Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

磯部光孝・多田由美・廣智章

秋元沙織・橋本大介・吉田遊佑

吉田貴吉・矢島正樹

ホームページからはカラーで
ご覧いただけます

イリアンソス



定価 一〇〇

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢 2-20-51

042-452-6406

042-452-6415 (F)

kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7

042-476-3400 (F兼)

sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里 5-10-10

042-420-9943

kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町 3-8-23

042-473-9667